

編 集 後 記

みなさん、ANMのAssociate Editor(学会編集委員会委員)の数が大幅に増員されていることにお気づきでしょうか。ANMが国際的認知度を高めるにつれ、投稿数もうなぎ登りに増えてきています。これまでは、12名の委員会メンバーのうち、委員長と工学系担当、薬学系担当を除いて9名の委員で月当番を割り振り、当番月に投稿されてくるすべての論文のEditor-in-chargeとしてハンドリングを行っていました。つまり、ひと月分のすべての論文の査読者を決定し、査読意見と論文内容を吟味して判断を下す、という業務を行っていただいていた。論文数が増えるにつれ、委員の先生方の負担は増え続け、多い月には40本を超える論文審査を行わなければならない状態に陥っていました。この状態でも委員の先生方には審査の質を落とすことなくがんばっていただいていたのですが、さすがに限界に達している様子でしたので、理事会に増員を諮り、許可していただいた次第です。

委員数のみならず、構成にも大きな変化があります。1つは、海外の先生を編集委員に加えたことです。日本に長く滞在されていた方で、現在中国で教授を務めておられます。もう1つは、種々の分野の専門家に加わっていただいたことです。まずは、分子イメージングの専門家に加わっていただきました。複合イメージングの時代において

は、光その他の画像が核医学画像と併用された論文が投稿されてきます。放射線・核医学の知識で不十分なことも発生するであろうと考えました。診療放射線技師の方にも参加をお願いしました。いうまでもなく、医師のみでは技術面をカバー仕切れるはずもなく、多くの診療放射線技師が日核に会員として活動していただいていることを考えれば、至極自然なことと感じます。さらに、統計学の専門家にも加わっていただきました。一流誌を目指すには、必須であろうと考えました。このような変革で、従来から加わっていただいている工学系担当、薬学系担当を含め、すべての領域の論文を、タイムリーかつ正確に審査可能な編集委員会になったと思います。

このような事柄の一部は、昨年来皆様に報告させていただいていたANMの科研調書にも、ANM国際発信力強化戦略の一環として書き込んでありました。

一見むやみに増員されているように見えますが、その背景にこのような思想があるということを理解していただきたく存じます。会員の皆様におかれましては、これまで以上にANMの編集にお力をお貸しくださいますよう、お願い申し上げます。

(金沢大学 絹谷 清剛)

「核 医 学」第51巻1号 平成26年2月28日発行 本号定価(本体価格1,800円+消費税)

編集兼発行者 絹 谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (公社)日本アイソトープ協会本館3階

発 行 所 一 般 社 団 法 人 日 本 核 医 学 会

振替口座 00180-5-741770 番

電 話 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail : anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ : <http://www.jsnm.org/>

印 刷 所 株 式 会 社 海 川 企 画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961(代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791(代) 日本医学広告社